
はじめに

社会に寄り添い、国民とともに歩む医療を

わが国は世界に類のない少子高齢化によって、人口の減少が始まっています。2025年には65歳以上の高齢者人口は3,657万人に達すると見込まれ、2040年には半数の自治体が存続が危うくなるとの報告も出されています。

このような急激な社会情勢に対応するため、日本医師会では、「継続と改革」「地域から国へ」というスローガンに、医療を取り巻くさまざまな問題の解決に向けて、医療界のさらなる団結を訴えながら「地域医療の再興」を旗印に掲げ、会務を遂行してまいりました。そして、地域の実情に沿った医療提供体制の構築を主張していくなかで、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、「国民とともに歩む」という姿勢を今後とも貫いていく所存です。

そもそも医療が扱うものは、健康や生命といった、すべての人類が希求してやまない普遍的なものです。わが国ではこれまで、医学や医療技術の進歩の成果を国民皆保険制度を通じて、広く社会に還元し、その結果、世界最高の健康水準を達成するとともに、国際的に高い評価を得てきました。

今後も、医療に対する国民の幅広い要請に応えるために、「かかりつけ医」を中心とした地域のネットワークのなかで、医療・介護・福祉・生活サービス等を一体的かつ適切に提供する地域包括ケアシステムを、地域を知り、地域とともに歩んできた医師会が作り上げていく必要があります。日本医師会としても、高齢社会における「かかりつけ医」を養成し、その機能をいっそう推進してまいります。

今回の年次報告書は、2014年度（平成26年度）の本会の活動を記録しております。

より多くの方々に閲覧していただけるよう利便性に配慮し、年次報告書の刊行の形式につきましては、書籍を発刊する形から日本医師会のホームページ上に掲載することに変更いたしました。

ぜひご一読いただき、日本医師会の活動にご理解を賜ればまことに幸甚でございます。

日本医師会長
横倉義武